



1. 1学期の終業式を迎えようとしています。

大阪管区气象台は、21日午前、「近畿地方が梅雨入りしたとみられる」と発表しました。近畿地方の梅雨入りは、去年より23日、平年より15日、いずれも遅くなっていて、統計のある1951年以降で3番目の遅さだそうです。梅雨の期間の降水量は、平年並みか多い予想となっていますので、大雨への備えが必要となります。

さて、学校では、テストや懇談会などをおこない、1学期をまとめる時期となります。4月の入学、進級から約3か月間が過ぎますが、子どもたちは、新しい学校、新しい学級、新しい学習内容などで一生懸命頑張っていました。1学期の子どもの成長につきましては、後日通知表にてお伝えしますが、学校は、子どもたちが「確かな学力」を身につけるために、毎時間、各教科共に観点別学習状況(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度)の評価を行い、一人ひとりの学習状況を把握し、個に応じた指導を行っています。

また、評価を指導に生かすことで、子どもの良さや可能性を引き出し、やる気を起こさせるようにしています。そのことが学習評価の大切な点です。ご家庭においても、後日お渡しする通知表を参考にいただき、お子様がよりよく伸びる話題と励ましの材料にいただければ幸いです。

7月20日(土)からは長い夏休みが始まります。暑い日々が続きますが、2学期始業式には、再び元気な笑顔で子どもたちと会えることを楽しみにしています。

2. 「あいさつ」できる力について

学習指導要領の総則には、「学校の教育活動を展開する中で、生徒に「生きる力」を育むことをめざすものとする」とあります。「生きる力」とは、問題解決能力や、自制心、協調性、思いやり、豊かな人間性などの資質や能力を示すものです。このような資質や能力は、先生や同級生などから多くのことを学び、獲得するもので、そのために学校の役割はとても大きいと思います。学校は、IQ や学力テストで計測できる認知能力(見える学力)に加えて、「忍耐力がある」とか、「意欲的である」といった、人間の気質や性格的なものである非認知能力(見えない学力)を培う場でもあります。しかし、一步学校の外へ出たら、認知能力(見える学力)以外の能力、非認知能力(見えない学力)がとても大切だというのは、多くの人が実感しているところだと思います。

大学の中退率に着目した研究では、高校時代に学力テストのみが高かった学生よりも、締め切りを守って宿題を提出したり、授業中に積極的に発言したりする学生の方が、中退率が低かったとのこと。高校時代に獲得した非認知能力(まじめさ、先生との良好な関係、計画性がある、やり抜く力がある、など)が、高校を卒業した後も功を奏したようです。

本校では、生活委員の子どもたちが「あいさつ運動」と称して、早朝から校門で互いに「あいさつ」を交わしてくれています。自分から「あいさつ」ができることは、非認知能力(見えない学力)の要素の一つであり、「あいさつ」は重要なコミュニケーションツールでもあります。心のこもった気持ちの良い「あいさつ」は、相手に思いもよらない感動や感謝、好印象を与えます。『「あいさつ」ほど、簡単でたやすいコミュニケーション方法はない。』とされています。積極的に「あいさつ」をするのは、思春期の子どもたちにとって、とても恥ずかしいことと思いますが、継続して訓練を重ね、身につけて欲しいと思います。

<参考文献 中室牧子著、『学力の経済学』Discover>